

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



めぐりあい交流キャンプ

夏休みに入ってすぐ、7/21～22 一泊二日で「めぐりあい交流キャンプ」に行ってみりました！

「キャンプがしたい」、「バーベキューがしたい」、「お酒も飲んで時間を気にせずゆっくり喋るなら、やっぱり泊りじゃないと!」、そんな実行委員の声が、たくさんの方々の協力で実現しました。

場所は岐阜県郡上市八幡町小那比にある、名古屋キリスト教社会館の野外活動センター。あいにくの雨だったのですが、着いてみてびっくり! 雨でも外でバーベキューが楽しめるようにと、先に現地で準備をしてくださったスタッフの方が、ブルーシートで屋根を作ってくれました。みんな感激でした。

着いてからは楽しいメニューがもりだくさん! こどもたちは「あまご」という魚のつかみどり。たのしい「キャー」と、怖がる「キャー」で大騒ぎ。掴まえた「あまご」はこの後バーベキューで塩焼きでいただいたのですが、とても美味でした。雨が小降りだったので、川遊びもできました。センターのすぐ下を流れる川はとてもきれいで、水の冷たさもなんのその! こどもも大人も思い切り楽しんでいました。スイ



カ割りでおやつのは後はバスで近くの温泉へ! もう最高でした。

そしてバーベキュー。今回のキャンプは地元、小那比の方々にもご協力いただき、バーベキューにも参加してくださいました。おいしい野菜にお肉、浪江焼そばや、地元

の方が差し入れてくださった猪のしし鍋、ほんとに美味しかった! 温泉でハダカのつきあいもして、おいしい食事にお酒、みんなの話も盛り上がり、楽しく、熱く、語り合いました。避難



(2ページへ続く)



者である参加者も、支援の方も、地元の方もその距離を感じず、一緒になって話せたことがうれしかったです。

大人たちが話に夢中になっている間、こどもたちはお腹いっぱい食べた後、きもだめしをしていたようです。お化け役になっておどかさず計画などをしている姿は、なんだか微笑ましかったです。最後はキャンプファイヤー。花火もしてみんなで歌って、こどもたちは一足先に眠りにつきました。寝袋をならべてみんなで寝る、なかなかできない経験です。

大人はその後まころゆくまで飲み、そして語り合いました。

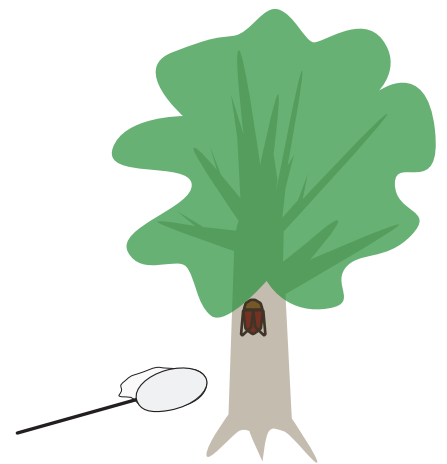
翌日、午前中はこどもたちはまた川に行ったり、体育館や庭でそれぞれ遊びを楽しみ、大人は地元の方と一緒に朴葉ずしをつくりました。お昼はなんと流しそうめん！ このために朝、名古屋から学生のボランティアの方々がかけつけてくださいました。こどもたちは流しそうめんにおおはしゃぎ。楽しそうに、うれしそうに食べていました。もちろん大人も負けずに参加して、いただきました。後半はバナナやらソーセイジやらゼリーまで流れてきて、大変な盛り上がりでした。朝作った、朴葉ずしもいただきましたが、そのおいしかったこと！「お腹いっぱいなんだけど、あともう一個」つついっ手伸びてしまいました。

お昼の後、小那比の方とお別れしてセンターを出発。郡上八幡町でプチ観光を楽しみました。町を流れる川はとても澄んでいて奇麗でした。そして帰路、バスの中ではみんなぐっすり z z z。

もうほんとに書ききれないほど、中身のぎゅっと詰まった楽しい2日間でした。「めぐりあい交流会」は、私たち避難者と名古屋キリスト教社会館を中心とした支援の方と一緒にしていますが、社会館のスタッフの方には、いつもみんなが思う存分楽しめるようにと準備をいただき、本当に感謝です。被災者支援センターや地元の方や学生の方、そのほかにもたくさんの方のご協力で、最高に楽しいキャンプになりました。ありがとうございます！

私たち避難をしている者の抱える問題は、避難者同士でも解りあうのが難しくなってしまうほど、それぞれにさまざまです。それでもそれを話し、共有し、繋がっていくことは大事だと思っています。それぞれの状況はさまざまでも、楽しいことは絶対共有できる！ だから「めぐりあい交流会」は楽しく！ こどもも大人も、避難者も支援者も、みんな一緒に楽しめる交流会を、今後も計画したいと思っています。その際は皆さん是非ご参加くださいね！

（実行委員長 江本 潤子）



愛知県被災者支援センター主催で「知りたい！《東日本大震災県外避難者》支援者のための講座 大震災から 2 年目、どんな支援が有効か？」を開催しました。

そこに参加された宇都宮さんに、感想をお寄せいただきましたので掲載し、ご報告に代えさせていただきます。

日 時：2012 年 7 月 19 日（木）14:00 ～ 17:00

場 所：愛知県社会福祉会館 3 階多目的会議室

参加者：81 名

呼び掛け対象：

県外避難者の支援をされている愛知県民、市町村、市町村社会福祉協議会、その他避難者支援に関心のある方

今回の講座は、自治体や地域での支援活動事例紹介や、県外避難者が現状や心境を語っていただき、支援の向上に役立つよう、「今後」を考えるものとなりました。

また、「東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律（原発事故子ども・被災者支援法）」が 2012 年 6 月 21 日に衆議院で可決されました。放射能で苦しむ方たちの生活支援のための法律です。画期的な法律ですが、まだこれは「理念法」の役割のもので、今後その内容をしっかりとしたものにしていく必要がある、との弁護士から話もありました。

今後も大きな課題となるものなので、皆様もご注目ください。

なお、法律の原文を別途添付しましたので、参考にしてください。

支援者のための講座に参加して

震災に関するマスコミ報道が減少する中、世間では支援への意識が低下していると言われていいます。私は岐阜県で、避難された方々の支援活動に携わっています。支援活動を通じて会う方はみな支援への意識が高い方ばかりですが、支援活動を離ればそういった方ばかりではないことを実感するのもまた事実です。そんな中、愛知県被災者支援センター主催の「支援者のための講座」に参加させていただきました。講座の中で避難された方のお話を伺いましたが、その際、一つのキーワードが浮かんできました。それは「自分ごと」です。

自分が体験したときにどのように対応できただろうか？震災直後の混乱、津波の恐怖。右も左も分からない見知らぬ土地で生活できるのか？避難されている方は、言葉では表すことのできない悲しみ、葛藤、不安を抱えながら歩ん

でいかなくتهはいけない。そういったことを改めて痛感しました。

人間は所詮、自分の体験以上のことを想像することができない生き物なのかも知れません。またマスコミを通じた情報では、どこか遠い国の出来事のように感じる部分もあるでしょう。しかし、生の声の体験談は心に深く刻まれ、それが行動への強い動機付けになっていくと感じます。多くの人に「もし、自分だったら」と「自分ごと」として感じてもらうことが出来れば、支援の大きなうねりにつながるのではないのでしょうか。

もちろん、体験を話すのは精神的に大きな負担をかけることと思います。「そっとしておいてほしい」「早く忘れたい」という方への配慮も必要でしょう。そういった中でまず私にできることは、周りの人へ伝えることです。支援活動を通じて出会った方のことを、家族に、友人に、より多くの人に話していきます。避難された皆さんが地域の一員として幸せに暮らせるようになるために、支援が必要なことを訴えます。それが私たちに課せられた責務だと思うのです。

（宇都宮 亮二）



7月21日に大阪弁護士会館で開催された、今回のシンポジウムの案内資料を、6月28日に実施された「広域避難者支援ミーティング in 東海」でいただき、自分の情報収集や法律の勉強のため参加しました。

そのシンポジウムの内容が素晴らしかったので、愛知県に避難しているみなさまにもお伝えしたいと思います。もりだくさんの内容の中で、特に大切だと思ったところをご紹介します。

① チェルノブイリ法から学ぶこと

－「移住権」を中心に－

チェルノブイリ法は、チェルノブイリ原発事故収束作業員及び放射能汚染地域の住民らが一丸となり、チェルノブイリ同盟という市民団体を設立し、それらが権利保護を求め声を上げ続けたことが大きな力となり、事故発生（1986年4月26日）の5年後に定められた法律です。

内容は次世代の子孫までも考慮した、市民にとっても寄り添ったものです。

その法律の内容を少し説明します。

- ・被災地設定を細かく明記した
- ・5msv/年超の地域は強制退去
- ・汚染地域の定義は1msv/年超としてしっかり定めた（1991年以降の線量であるが）
- ・1msv/年超の地域では移住権が認定される
- ・移住権に基づく地域に残ってくる喪失資産（住宅、菜園など）に対してはその分の金額が補償される
- ・汚染地域からの強制避難及び自主的移住者、両方共が保障対象
- ・避難に掛かった輸送代が補償される
- ・被災者及びその子供（含胎児）、さらにその次世代の子供に対して生涯にわたる無料健康診断が行われる
- ・上記の資金支出義務が国であることを明記

これらを今の日本に当てはめるならば、1msv/年超の地域は福島県だけに限らず、岩手県

の一部や関東の多くの地域が汚染地域として定義されます。

それにより金銭的補償はもちろん移住権も保障され、我々が感じる「自主避難」に対しての精神的苦痛というのはかなり軽減されるはずです。

自費を要して「自主避難」という名の緊急の引越しをすることは、あまりに経済的負担が大きい事です。そして、汚染地域に残してきた喪失資産に対しローンを払い続けるというのは、もつてのほかであります。

更に、福島県民でないという理由で、被曝の心配による健康診断を自費で受ける、というのはやはり有り得ない現状だと考えます。総て国の責任で保障されるべきだと思います。

チェルノブイリ法は、いくつか問題点もあるようですが、何より大切なのは被害を受けた市民が一致団結し声を上げ続けた結果、このような大きな形になったということです。

私達も日本初の甚大な被害を受けた者同士、この先の日本を見守る立場だけではなく、微力でも一つ一つの力を合わせ、チェルノブイリ被災者同様、大きな力にするべく結集する時だと思います。

そして、国の責務を明確にするため数年掛けてでも、大切な次世代を守るため諦めずに進んでいくべきです。大切な故郷を奪われた被災者の私達だからこそできる大きな役割を、出身県に関係なく皆で努めていきたいと思いました。

② 原発避難者のうけている甚大な精神的苦痛について

「福島県から避難中の方を対象に

震災一年後に実施された心身調査」から

早稲田大学の埼玉県における大規模調査結果によると67%の方がPTSD（外傷後ストレス障害）の可能性があるとのことです。

症状はフラッシュバック、外傷的出来事を思考・感情・行動で意識的または無意識に回避しようとする事、不眠、イライラ、涙、過度な警

戒心などがあります。

また心理的ストレス反応調査では、90%以上の方が「不安・怒り・無気力・抑うつ」で高い数値を表しています。

これらは、過去の震災や事件、事故のときのデータより遥かに高い数値結果のようです。

精神的苦痛の内容は、「被曝での健康不安」「避難費用により貯蓄の激減」「失業・生活費不安」「近隣関係・人間関係」「孤独感・社会的孤立」であり、今回の震災、避難は多方面でのストレスが大きいという事がわかります。これから永遠に続く不安や、自らで判断しなくてはならない移住先などの問題は、終わりのなきストレスであります。

自分ではストレスを感じていないと思ってる

方でも、一年が経過した今も心の中にはあの日の事が鮮明に刻み込まれ、大きな傷として抱えている方が多くいらっしゃるのが現状です。その目に見えない傷が、何かのきっかけで涙や不安感、悔しさからのイライラとして現れる時もあります。あの日の事がいつか薄れることはあるとしても、忘れることは一生ないでしょう。

私たち「体験者」だからできることは別に、私たちを取り巻く市民が、支援者だからできることや愛知県民だからできることもあります。力になりたいと思ってくださっている方は、日本中に大勢います。たくさんの支えや温かさの中で少しずつ、ほんの少しずつでも「一緒に」前に進んでいきたい。どうか頑張らずに…

(井川 景子)

第5回 子育てつどいの広場 in 瑞穂区

日時：7月29日(日)10:30～14:00

場所：ボラみみより情報ステーション

主催：NPO法人 ボラみみより情報局

避難者参加者数：8世帯

(大人10名、こども10名)

今回も0～3歳児とご家族の方々対象のイベントを開催させていただきましたが、たくさんの方に参加していただきありがとうございました。

お母さんたちにはリフレッシュしてもらい、お子さんたちには思いっきり遊んでいただきました。お母さんたちの交流や情報交換も重要ですので十分できるよう、セルフドリンクコーナーを設けました。季節柄、冷たい飲み物を用意させていただきました喜んでいただきました。

また、お帰りの際は、今回も様々な企業や団体から協賛品や多くの方たちからお寄せいただいた絵本や衣類などを皆さんにお土産に帰っていただきました。

あと、必要なご家庭には、前回同様、新品の赤いランドセルをお渡ししました。こちらは支援団体より提供していただいたものです。

お知らせを3つ。

- 1) 第6回は涼しくなってから開催する予定です。



- 2) 今回も提供いただきました「赤いランドセル(新品)」ですが、まだ若干在庫があります。直接ご来所いただくか送料着払いでお渡しできます。必要な方はご連絡下さい。年齢制限はありません。

- 3) ボラみみより情報ステーションは、火曜・日曜・祝日をのぞく、月～土曜日の10時～16時に開設しています。9月中旬までは水遊びプールを無料開放中。冷暖房完備です。駐車場若干あり。通常、入会金が必要ですが、「あおぞら」をご持参いただければ、入会金不要です。9月末まで。

詳しくは、

ボラみみより情報ステーション

boramimist@yahoo.co.jp まで

〒467-0842

愛知県名古屋市瑞穂区妙音通2-40

横山ビル1階

TEL：080-4228-5356 (10時～16時)

FAX：052-811-1812

<http://locoplac.jp/t000095629/>

(NPO法人 ボラみみより情報局 スタッフ)

『東日本大震災による広域避難者の「いま」そして「これから」』を開催しました

愛知県司法書士会は、去る 8 月 5 日（日）名古屋中区役所ホールにて、掲題の市民公開講座を開催しました。当日はロンドンオリンピック真っ只中で、本当に参加者の方が来てくれるのだろうかと心配しましたが、何とか 224 名のご出席をいただいて開催することができました。

当日は司会に、元東海テレビアナウンサーで仙台市出身の 稲葉 寿美 さんを迎え、堅苦しいだけではなく、ソフトなコメントもいただきながら進行していきました。

第一部はドキュメンタリー映画「あなたへ」の上映、第二部は当事者へのインタビュー、愛知県被災者支援センターのご報告、実行委員長である私のまとめ、最後に歌人俵万智さんのメッセージと作品である 3.11 短歌集「あれから」の中から数首を稲葉アナウンサーに朗読してもらい、2 時間 30 分の講座を締めくくりました。



この市民公開講座は支援者や当事者向けではなく、マスコミ・新聞広告も使って、広く一般市民向けの講座として開催しました。その目的としては、広く避難の状況を知っていただき、必要な支援を考えることや、「子ども・被災者支援法」の理念をしっかりと反映させた生活支援等施策の実現のため、



めに、広く市民の理解を求めることなどもありますが、最もお伝えしたかったことは、国民全体が「他人事」ではなく自分たちの問題であることを認識すべきであるということです。

参加者からは、「避難されていることを初めて知った」「今後何年経っても意識を高く持っていなければならない問題であると実感した」「自分の手の届く範囲で何かできることがあれば取り組みたい」などの声、「避難者の方が提案して下さった政策を進めたい」など政治家と思われる方からの声、「企画して下さい本当にありがとうございました」という、主催者としてはうれしい声もありました。

私たちが初めての試みでしたので、お見苦しい点もたくさんあったと思いますが、参加者の声をお聞きする限り、一定の成果はあったと考えています。この講座をイベントで終わらせることのないよう、今後もできる限りの活動を続けていきたいと思っています。

交流会等でお会いしたときはぜひお声掛けください。

（司法書士 江里 二郎）

お盆休みの帰省

今年もお盆休みを利用して、栃木県那須塩原市に帰省してきました。帰省の度に同じ感覚になるのは、ホットスポットに入っていく躊躇いと、待っていてくれる人達に早く会いたいと思う気持ちです。

那須塩原駅に到着して、まず思ったのは、やっぱり放射能のこと。

那須塩原の地面を下の子に踏ませることは、一度もありませんでした。

そして、涼しい。風が爽やか。こんなに心地いい空気が現実には放射能汚染されているなんて…

娘はとにかくお祖母ちゃんにベッタリ甘えて、離れませんでした。

私は毎日たくさんの友人に囲まれて、過ごしました。そこには、「被災者」でも「栃木県から避難してきた井川さん」でも「自主避難者」でもなく、ただの「わたし」で接してくれるみんなが居ました。

離れていたなんて全く感じない、あたかも昨日までも一緒に居たかの様な、居心地のいい空間がそこにはありました。

くだらない話を、一生懸命話せる仲間。大切な話を、ちゃんと話し合える先輩。

昔話を、笑い転げて話せる友人。みんなと過ごす時間は、アツという間でした。娘のお友達は何事も無かったかのように、皆お外で遊んでいまし

第4回 ふるさと交流会 in 一宮七夕まつり

一宮での第1回のたなばた交流会からちょうど1年、4回目となるふるさと交流会が7月28、29日に開催されました。真夏の暑い最中、冷房もない屋外での交流会に、6家族、19名の方が参加されました。場所は「サンライズ広場」という一宮七夕まつりのメイン通りのすぐ脇で、夕方からは多くのミュージシャンが奏でるライブがあり、それも交流会を盛り上げてくれました。

今回は、浴衣に着替えて、七夕まつりを楽しんでいただく企画も用意しました。浴衣は市内の多くの方々や呉服屋からたくさん提供いただき、また装道礼法きもの学院の先生方のご厚意で着付けもしていただきました。皆さんとてもお似合いの浴衣姿でした。

浴衣に着替えて賑やかな町中を散歩し、故郷のお祭りやおばあちゃんを思い出した方、しばらく会っていない友人を懐かしく思う方、それぞれの想いがあったようです。



そして、プレゼントされたお気に入りの浴衣を着たまま帰られる方もおられました。

今回の交流会が初参加という福島から来られた方から、故郷に残っているご両親がとても気がかりというお話をおうかがいし、故郷を思う気持ち、1年5ヶ月が経過した震災・原発事故の痛ましさに、あらためて心を動かされました。

できるだけオープンな場での交流会、誰でも気楽に立ち寄ることができる交流会。もちろん参加された皆さんの声に耳を傾け、ともに考えともに悩みともに笑う、こんな場をこれからも持ち続けたいと思います。

また、今回は名鉄百貨店前で、「七夕 for 七夕」・「鎮魂と復興」と題したパネル・写真展とミニライブを開催しました。愛知県、一宮からの被災地支援の写真の他、避難している子どもたちの書いた書（ひと言）、絵画、愛知県被災者支援センターの資料、写真などを展示しました。（27～29日開催）

七夕まつりと云う喧噪の中、多くの方が足を止め今も続く震災、原発事故そして、愛知県にも非常に多くの方が避難されている現状に、あらためて気持ちを寄せていただきました。



た。去年の夏に帰省した時、栃木の子どもたちは真白で、我が子が日焼けしているのが申し訳なく感じていましたが、今年は真っ黒に日焼けしていました。去年の夏は閉鎖していた市民プールも、今年は賑わいをみせていました。そして友人たちは続々とマイホームを建て、『放射能』なんて忘れてしまったかのように、震災前の様に暮らしていました。

那須ガーデンアウトレット。そこは震災後、人の出入りが減った場所。しかし、今年は前の道路は入場の為の大渋滞。駐車場は都心ナンバーの車ばかり。敷地内には人が溢れんばかり。ここの線量は毎時0.7μsv/h。

私は子ども達を連れて、行けませんでした。しかし、ここにも子どもがたくさん歩いている。ベンチにも座っている。「日光湧水のかき氷」のお店には、長蛇の列。去年の夏と今年の夏… たった一年で、みんなどうしてしまったのでしょうか。「ここに居るしかないから、不安をあおらないで

ほしい」と言った栃木の人の言葉。私は何も返せませんでした。

今回沢山の栃木を見てきました。那須塩原市は田舎です。でも原発事故前、私はこの地で何不自由なく、全てが満たされて暮らしていました。娘が、最終日にお祖母ちゃんに泣きながら、こう言ったそうです。

「どうして地震はおきたの？ 地震がこなかったら、とちぎはきれいで、ずっとみんなと一緒にいられたんでしょう。なんで、わたしだけここにいられないの？」と。

翌朝、娘の目はパンパンに腫れ、駅のホームで泣きながら、私に「とちぎにいたら、病気になる？」と言いました。

娘は6歳になりました。そろそろ、ちゃんと説明しなくてはいけない、と感じました。そして栃木の大切な人達や娘の気持ちも守りたいと、改めて思いました。また愛知県で頑張ります。

（井川 景子）

次回9月号より、「あおぞら・情報掲示板」（仮称）を作ります。

「あおぞら・情報掲示板」・・・情報を募集！

こんなこと知りたい！どこへ行ったら良いのやら…

これは良かった！皆さんにおススメしたい！ここに行って良かったよ！

愛知県に避難してきた私たち。土地に全く不案内な方、地縁がある方、3.11直後から避難している方、つい最近避難してきた方。

様々な方がいらっしやると思います。そんな私たちの誰もが、双方向の情報が集まる掲示板があるといいと思いませんか。

愛知県に避難してきた私たちが、ゆるやかに、温かな繋がりが感じられる場になれば。

「こんなことをやりたい！」を実現していく過程で、支援者・避難者が協力してやっていけたら。そう思っています。

◆ 避難してきた愛知県での知りたいこと、やりたいことの例として…

- シルバーカーなどのレンタル情報
- 病院・整体・マッサージ・お灸などの情報
- 囲碁・将棋・マージャン・花札 など一緒にしませんか？
- 畑・大工・落語・相撲・民謡 など興味のある方
- 手芸情報（押し花、絵手紙、紙粘土・フラダンス…）・教えられます・習いたいです
- 魚釣り情報
- 甲状腺検査してくれる気さくなクリニック、病院情報
- 小さい子どもにも安心して食べさせることができるレストラン・カフェ情報
- 公園・テーマパークなど子どもの遊び場情報
- 農薬や添加物、内部被爆の不安のない食品の入手先

など、など…

◆ 応募方法

◎ メールまたはFAXにて

E-mail : aozora@aichi-shien.net

FAX : 052-954-6993

◎ 文字数：1情報につき200字以内

◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。

（実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください）

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

◆ 皆様からの情報をお待ちしています。

